

仙台市博物館協議会会議録

1. 会議の年月日 令和6年11月26日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時00分から午後4時30分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

鹿又喜隆、佐治ゆかり、佐藤琴、佐藤淑子、高橋たくみ、長岡龍作、七海雅人、若生彩

※籠橋俊光、伊達泰宗委員は欠席

4. 説明者の職及び氏名

館長＝今井吏、副館長＝樋口智之、庶務係長＝久慈裕子、学芸企画室長＝酒井昌一郎、

学芸普及室長＝水野沙織、学芸企画室主任＝寺澤慎吾、学芸企画室主事＝黒田風花、大内直輝、

学芸企画室総括主任・記録＝佐々木徹

5. 議題並びに議事の要旨

(1) 会議録署名委員の選任

会長と鹿又委員とする。

(2) 報告事項

① 令和6年度の観覧者数について(庶務係長報告)

「資料1」のとおり。

② 特別展「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」の結果報告について(学芸企画室長報告)

「資料2」のとおり。

③ 特別展「親鸞と東北の念仏一ひろがる信仰の世界ー」の結果報告について(学芸企画室長報告)

「資料3」のとおり。

〔委員の発言〕

2つの特別展でなぜ観覧料金が違うのか。予算との関係はどうなっているのか。

〔事務局の回答〕

特別展はそれぞれの企画ごとに定めることとなっており、基本的には支出額との兼ね合いとなる。その見込みに応じて定めている。

〔委員の発言〕

特別展の関連イベントが大変魅力的であった。その苦労話があったら教えてほしい。

〔事務局の回答〕

特に特別展「大航海時代へ」での SMMA イベントについて、コラボした館との調整がたくさんあり、大変だった印象がある。ただし、大変協力的であったのでやりとり自体はスムーズに進行した。お互いの館の活動に広がりが出るよう工夫して実施できたと考えている。

〔委員の発言〕

学校教員向けのミュージアムセミナーの内容とその効果はどのようなものであったか。

〔事務局の回答〕

セミナー内の特別展の見どころ解説では、教科書に載っている資料が出品されていることなどを広報した。参加者には社会科や美術など様々な教員がみられ、アンケートでは展覧会の内容・見どころについて今後の授業に活用したいなどの意見が出ていた。確かに参加者数が多いとは言えないが、若い先生方がリピーターになってくれており、ゆくゆくは生徒たちに還元されるものと期待している。

〔委員の発言〕

集客数がすべてではないし、大変意義のある展覧会ではあったが、特別展「親鸞と東北の念仏」は赤字の見込みのようである。観覧者のターゲットはどのような層を狙っていたのであろうか。

〔事務局の回答〕

浄土真宗との関わりを東北全体から紹介し、面的な広がりを出せた点には大きな意義があったと考えているが、内容的に玄人好みになってしまったきらいがある。本当に一から準備した展覧会であったため、かみ砕く時間が思うように取れなかったと感じている。

〔委員の発言〕

社会学級研究会で親鸞展と一緒にサロンを開催できた。初来館の方もいて大変有意義なものとなった。ありがとうございました。

〔委員の発言〕

浄土真宗は東北地方ではそもそも馴染みが薄いと感じていたが、全体像がよくわかり、大変すばらしい展覧会であった。ただし、「慕婦絵(ぼきえ)」や「三十六人家集」といった貴重な資料が出品されていたことを踏まえれば、そこをもう少し強調するなど、もっと広報的な工夫があってもよかったのではないだろうか。

〔事務局の回答〕

貴重な資料が様々にあって見どころを絞りきれなかったこと、広報が少し出遅れてしまったことについて反省している。また、主催団体にマスコミが入っていると広報展開は少し違っていたかもしれない、という思いもある。

〔委員の発言〕

反省点は、また次の機会に活かしていただければと思う。

(3) 協議事項

①企画展「新収蔵品展 2017-2024」について(学芸企画室主事報告)

「資料4」のとおり。

〔委員の発言〕

博物館での資料収集基準を教えていただけるだろうか。また、仙台にとってどのような価値があるのか、あるいは当時の生活の様子が紹介されると身近に感じられて、展示内容に親しみをもってもらえるように思う。

〔事務局の回答〕

収集基準については内規があり、伊達家・仙台藩や東北・仙台地方に関わる歴史・美術資料となっている。そのため、なかには受け入れできない資料も出てくる。仙台との関わり、価値付けについてもわかりやすくお伝えしていきたいし、本展の展示資料は現在選定中ではあるが、生活に身近な資料もぜひチョイスしていきたい。

〔委員の発言〕

刀剣も出品されるようだが、刀剣乱舞とコラボしてみてもどうだろうか。色紙を1枚書いてもらえるだけでも、だいぶ広報効果があるように思う。また、砲術に関わる藩士が博物館のすぐ近くで活動していたと聞いているが、来館者がそうした場所にも行けるまち歩きコースをつくっていただけるとよいと思う。

〔委員の発言〕

タイトルについて、パッと見て内容がわかるものの方がよいのではないだろうか。展示についても、同じような資料でも見せ方を工夫して何とかPRしてもらえればと思う。また、展示は静かなものだが、先ほど話に出たまち歩きや刀剣など、イベントを度々実施することでマスコミへの露出を増やし、会期中でも繰り返しPRできる機会を設けるとよいのではないか。

〔委員の発言〕

この機会に館で収集したい資料を積極的にアピールしてみてもどうか。この種の展覧会は、収集資料に関する館側の構えを見せる絶好の機会でもある。その意味でも、何がやりたいのかがわかるタイトルにした方が、より戦略的・積極的でよいと思われる。

〔委員の発言〕

埋木細工の展示があるようだが、東北大に今でもあるメタセコイアなどが化石化すると埋もれ木になるわけなので、そうした対比も交えて展示できるとよいのではないか。また、独楽が展示されるとのことだが、実際に外で独楽を回して遊んでみるなどのイベントがあっても、子どもたちが参加できて楽しいと思う。

〔事務局の回答〕

様々なご意見ありがとうございます。費用的な部分も勘案しながら、色々な方法や手段を用いてPRできるよう検討してまいります。

〔会長の発言〕

それでは時間もございますので、協議は以上とします。ご提案の内容で進めてよろしいですか。(異議なし)

②特別展「仙台藩を巣立った殿様たち(仮)」(学芸企画室主事報告)

「資料5」のとおり。

〔委員の発言〕

仙台藩を巣立った伊達氏もたらした文化との近親性や影響関係に注目して、展示や関連イベントを実施してはどうだろうか。たとえば祭礼の模擬をやるなど。そうすると、巣立ったことの意味やつながりの粗密などが体感できるのではないだろうか。

〔事務局の回答〕

具体的には今後検討していきたいが、和歌や連歌での家同士のつながりはみえてきているので、その点は紹介したい。

〔委員の発言〕

遠くの藩や県ではあるけれども、仙台からの色々な支援があつて成り立っている、あるいはその土地の産業や生活がつくられていったか、といったことも紹介してもらえればと思う。

〔委員の発言〕

歴史姉妹都市 50 周年という節目の年なので、ぜひ盛大に盛り上げてほしい。文化観光局や経済局と連携して、たとえば宇和島フェアを緑彩館で行えば人が流れてくることも考えられるので、他局に声掛けすることは検討してほしい。鹿踊りや和霊神社などを事例としながら、両藩、両方の伊達のつながりをしっかり示していただければと思う。現在小学校同士の交流事業も行っているので、学校や子どもたちにも PR するなどし、この歴史的なつながりを紹介できるとよいと思う。また、展覧会のタイトルについても、記念の年なのでもっと宇和島感を出してほしい。

〔委員の発言〕

繰り返しにはなってしまうが、記念の年なのでできれば賑やかに実施してほしい。また、宇和島側が特別協力となっているが、主催・共催に入ってもらった方が、より前面に出てよいのではないだろうか。その方が仙台で宇和島のイベントを実施できるなど、相互の交流にもつながるのではないか。

〔事務局の回答〕

ご意見ありがとうございます。主催・共催については、40 周年記念の特別展の際は、無償で数多くの優品を出品していただいたので、特別協力という形にさせていただいた。主催だと、本展の中身を一緒に考え、一緒に行くという感じになるが、今回そういう形にはならず、また共催だと名義だけの共催という場合も多く、そうなるとレベル感が変わってきてしまう。どういうあり方がよいか、今後も引き続き検討を進めたい。いずれにしても、仙台と宇和島が協力しているということは強くアピールしていきたい。

〔委員の発言〕

10 年前の展覧会の繰り返しでは面白くないので、新しいものをやるという構えが必要だろう。先ほどから話題と

なっている広報戦略も重要である。豊臣秀吉画像は、数ある画像のなかで最もすばらしいもの。こうした貴重な資料を前面に出すなど、ぜひ広報戦略を工夫してほしい。

〔事務局の回答〕

ご意見ありがとうございます。

③特別展「久能山東照宮展(仮)」(学芸企画室主任報告)

「資料6」のとおり。

〔委員の発言〕

参考までに申し上げますと、生前に造られて駿府城にあったとされる徳川家康の彫像が家康の遺志で江戸の増上寺に安置され、それがのちに移って隣の芝東照宮にある。家康の髪の毛や歯などが胎内にあると伝承されている。瑞鳳殿の伊達政宗の木像も彼の遺志で置かれ、そうしたものが納められていた。戦国武将たちは、死んだ後の自分の世界に像を残すことでつながろうとしており、久能山はそうしたことの濃密な舞台。大変楽しみな展覧会であり、ワクワク感が伝わる展示になることを願っている。

〔委員の発言〕

出品点数はどれくらいか。また、別会場でも開催すると口頭報告があったが、歴代将軍の15点の具足が一堂に会した状態で観覧できるのか、それとも別会場での展示期間などとの兼ね合いで何回かに分かれて展示され、トータルで15点の具足が見られるということなのか。それによってインパクトがかなり違う。

〔事務局の回答〕

出品点数は現在のところ100点程度を予定している。家康具足は2領あり、それは展示替して出品するが、それ以外の2代～15代将軍の具足は展示替なしの予定である。いずれにしても、当館では初代～15代将軍が常に展示される予定である。

〔委員の発言〕

それはものすごく魅力的で見どころとなる。ぜひ展示も造作も工夫してほしい。

〔委員の発言〕

これまでの展覧会にも言えることだが、どこの何の展覧会に来たのかがわかるような写真スポットは設けられないだろうか。それがあれば、映えスポットのようになり、SNSなどで拡散してもらえるのではないかと。また、せっかくの徳川家の展覧会なので、過去に家康を演じた俳優をお招きしてイベントを開くことはできないものだろうか。

〔事務局の回答〕

関連イベントはまだこれからなので、検討してまいります。

〔委員の発言〕

東北大学の曾根原先生は徳川家康の研究者なので、イベントにご協力いただいてもよいかと思う。

〔委員の発言〕

展示品の写真撮影は可能となるのだろうか。それによって館内で写真を撮りたい人が増えるのではないだろうか。

〔事務局の回答〕

展示資料が久能山側では「神宝」と位置づけられているので、どういう対応ができるのかも含めて、これから検討を進めてまいりたい。

〔会長の発言〕

そのほかにご質問はありますか。ご提案の内容で進めてよろしいですか。(異議なし)

6. その他

〔委員の発言〕

調べ学習サポートプロジェクトが例年どおり夏休み期間に行われていた。しかし、情報資料センターでのサインが小さくてわかりづらく、また中に入っても、どこで何をやっているのかよくわからない状態だった。これは、小・中・高校で展開されている探究学習との関係で重要な取り組みだと思うが、各段階に対応するあり方を考えていく必要があるのではないかという感想を持った。来年は、宇和島展とも絡めて、仙台・宇和島の交流学習も含めた形で、学校の先生たちもしっかり巻き込んで学習プログラムを設け、涼しい博物館で楽しい学習ができるよう立体的に実施してほしい。また、宇和島展のタイトルはこのままでいいのだろうかという印象を持った。展示内容についても、巢立った殿様にくっついていった「家臣たちもつらいよ」といった点などにも触れて、相互の家臣のあり方や現在にいたる交流も含めた、立体的な内容の50周年記念特別展になるといいと思う。

〔事務局の回答〕

探究学習は話題にもなっているし学校現場では当たり前になってきているので、子どもたちが何に疑問を持ち、自ら何を調べて、さらにそれをどう伝えていくのかといったことを見越した学習プログラムを考えていきたい。また、宮城一高に探究科が設置されているが、同校に在籍する学生が近々当館に調査に来る予定となっている。調べ学習サポートプロジェクトの内容は、そこでの状況も踏まえてさらに充実させていきたい。

(1) 次回開催日程について(副館長報告)

「資料7」のとおり。